魔法少女リリカルなのは～戦士達の記憶～

あの時の俺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法少女リリカルなのは～戦士達の記憶～

【Ｎコード】
Ｎ１６７７Ｉ

【作者名】
あの時の俺

【あらすじ】
Ａ　ｓｐａｃｅ－ｔｉｍｅ　ｃｅｎｔｕｒｙ
３５８０

時空世紀３５８０－

ある事件を発端に、管理局と戦争状態に入る世界。その中の小さな兵士達の記憶を描くオリジナルストーリー。戦場を駆け抜けた彼等…何をするために、何を賭けて、何を遺し、何の為に戦い散ったの

か。

歴史から闇に、葬られた時空大戦…

彼等の思想は受け継がれ今、再び甦った。

復讐を果たすために…

日記（前書き）

どうも、筆者のあの時の俺でございます！

駄文です！
まず、間違いなく駄文です！

とりあえず書かない事には始まらないっ！て事で書きました！
いろいろ至らないとこがあるので、温かい目で見守ってやっていただければ幸いです。

感想とか書いて頂くと、感極まって号泣します。

では、始まります。

日記

Ａ　ｓｐａｃｅ－ｔｉｍｅ　ｃｅｎｔｕｒｙ
３５８０

時空世紀３５８０－

１．１
今日は記念すべき日だ。今まで解決されなかった紛争もやっと終わり、今世界は統一に動き始める。各地では世界統一を祝うセレモニーが行われ、非常な盛り上がりを見せているらしい。紛争が終結したばかりの地域でもそういうものが催され、活気を取り戻す為の活力になるであろう。我々の地域ではお祭り騒ぎで、これもまた自分の胸を高鳴らせる。未だに残る問題もあるが、これで解決にむかうであろう。この記念すべき日に、恒久平和実現への願いを書き留めておく。我々のこれからがが非常に楽しみだ。

２．１７
本日より時空管理局から我々の世界は支援を受ける事になった。未だに不安定な状態が続く我々の世界にとっては、非常にありがたいことだ。徐々にではあるが、世界に活気と笑顔と希望が戻り始めている。だが…管理局の支援に入るタイミングが少々気にかかる。我々にとって支援は非常に助かるが、管理局に申請を行わねばならない程ではなかった。普通なら紛争防止の為に何か行動を事前に起こしていたはずでは？いや、勝手な憶測か…彼らにはそれなり事情が

あったのだ。しかも、好意で施しを受けているのだ。素直に感謝すべきか。

4．6

我々の世界もようやく落ち着きを取り戻した。世界政府を立ち上げ、恒久平和への第一歩を踏み出したのだ。初代大統領も決まり、議会も本格的な活動にはいるであろう。管理局も経済的、政治的に不安定な地域に支援を行っている。全時空世界の先頭に立つ彼らとしてやはり素晴らしいものだ。自分も、一軍人として彼らを全力で支える所存である。

追記

かつての紛争地域において、現地の子供達が集団で失踪するという奇っ怪な事件が発生した。しかも、奇妙なことに全員が魔導士としての素養を持っていたとのこと。我々対魔導機動隊をもってしても補足できない事態に、上層部は管理局に支援を要請するようだ。彼等に頼り切りで申し訳がたたないが、仕方あるまい。

潜入（前書き）

続きです

潜入

5．28

さて、ここからは先程とは違い、貴方は過去をリアルタイムで見ている状態になる。別に小説と変わりはない。ただ、それだけだ。

日記に記した通り、子供達の集団失踪…事態は深刻化している。子供だけではなく、青年層にまでそれは拡大している。管理局の支援は未だ継続中。そして、分かったこと。

1管理局がこちらに滞在している間に失踪事件が起こる

2管理局が支援を行った地域から失踪事件が発生する

3失踪者全員が魔導士、もしくはその素養があるもの、そして全員の死亡を失踪地域周辺で確認。

ここまでくれば管理局に潜入する理由は十分だ。つまり、俺は今管理局に潜入している。

申し遅れたな、俺はコードネーム「ブレイド」。階級は大佐だ。

趣味は音楽鑑賞。好きなタイプはヒミツだ。ちなみに、美人の嫁さんと可愛い娘と息子が自慢だ。

さて、今回の作戦について説明しよう。

俺達は小数精鋭隠密部隊。人数は5人。各員潜入用装備で、特殊仕様バリアアーマー（以下ＢＡ）装着。ただ、これだと通気ダクトや狭い通路からの侵入ができない。で、まず管理局にお偉方を視察に

向かわす。それから、ご丁寧に隠密部隊隊長の肩書を持つ人間を入れておく。すると管理局の戦力がまず護衛にまわり、さらにその隊長に監視がつく。

というわけで、管理局が超単純だったおかげで手薄、どころか完璧に無人の警備の中、俺達部隊は目標である一つの部屋に進んでいるわけだ。

「隊長、監視及び警備は手薄、むしろ皆無です」

そう報告に来たかれはアルファ少尉（コードネームだ）。真面目で融通もきく、さらには仕事もできるこの部隊で頼れる奴Ｎｏ．１。

「おぉ、ご苦労様」

労いの言葉を述べてやると、少尉は嬉しそうに顔を綻ばせる。ちなみに彼はショタ要員だ。

「ご苦労さん。まぁ、それは遠回しに管理局はバカです、って言ってるのと同じだなぁ？アルファ少尉」

労いのわりに言葉は悪いが根はいい奴、きちんと仕事もこなす。彼はロリ…リッパー大尉だ（もちろんコードネーム。以下省略させてもらう）。

リ「大佐、今俺のことロリコンて思いませんでした？」

「いや、思ってないよ？」

なんて勘が鋭い…奴はニュー○イプか！？

ア「そう…ですね」

少尉、認めちゃうんだ。

リ「というか、早くしないとアレらがうるさいですよ？」

「わかってる…リリー中尉、セシリア中佐、索敵及び警備の確認は終わった。見張りを止め、至急合流ポイントへ。ルートはそちらに送った、以上だ」

「了解」

うわ、ハモった…しかも、返事速ッ…

ちなみにリッパーの言う、アレとは女性陣の事だ。

最悪（前書き）

ヤッタァアアアア感想頂いたぞぉおおおお！

もう嬉しくて涙が…

ホント嬉しかったです！あと、ご指摘頂いた点は今後意識していこうと思います。

では相変わらず駄文なんですが、頑張っていきます！

では、続きをどうぞ

最悪

「少尉、この部屋か？」

女性陣と合流し、さらに進んでたどり着いたある一室の扉の前に立ち、俺はアルファ少尉に確認する。

「間違いありません。その部屋から未確認の熱源を感知しています。反応から推測して人間、数６８」

さすがはアルファ少尉だ。索敵哨戒に特化した彼にはこの程度の隔壁は無いも同然か。だが、偵察のみにしろ突入にしろもう少し情報がなければな。最悪何してるか解れば…

「ッ！？」

「んあ？どうした少尉」

何かあったのか。少尉は　ＢＡ越しでもわかるほど震えている。

「おいおい…ホントどうした？」

「こ、これです…そんな…酷い…」

「あぁ？……大佐、ヤバイ事になりました」

急にしゃがみ込んだ少尉は自分が得た内部の情報を、腕の小型モニターに映しリッパーに渡した。いや、リッパーが奪い取ったに近い。少尉の様子からするにかなりえぐい事になってる。

「どうしたの？」

「リリー、セシリア中佐見ない方がいいですよ」

リリー中尉が少尉に近づくのをリッパーが止めた。あぁ、やっぱり惨いことになってんだな。でなきゃ、おちゃらけリッパーが鋭さを持った声で注意なんざしない。てか、いい加減待ちくたびれましたけど？

「で？何なんだ、ヤバイって？まさか、俺の同種が作られてて、しかも兵器の実験台にもされていて、更にはその材料が……リッパー大尉、それを見せろ、命令だ」

「了解」

最悪のシナリオ…

強化人間製造、質量兵器及び有人、無人機動兵器の性能実験、そして拉致に虐殺…あと偽装工作。冗談で言ったんだけど？

俺はリッパーから受け取った小型モニターに映ったデータと映像を確認して、分かった。

やってくれやがった…管理局

全部見事に的中。

空気が重い。その中で俺は一つ深呼吸して皆に告げる。

「さて皆…最悪のシナリオが始まっちまった」

最悪（後書き）

「はい、ブレイド大佐の」

ちっと補足のコーナー！

「てか、帰っていいよね？筆者の思いつきなんかに付き合ってられませんから。しかも、俺序盤で死ぬじゃん。なのにこんなコーナー作っていいの？」

「ちょっと、大佐！ネタばらしはやめて下さいよ！」

「いや、読者の大多数が既に予想してると思うけど？つーか、ロリ…大尉、居たんだ」

「今ロリコンって言おうとしましたね！？絶対しましたね！？……まぁ、わからんでもないですけど…」

「はい、無駄話やめてさっさと補足いこうか」

「じゃあ、最初からそうして下さい。では大佐、最悪のシナリオって何ですか？」

「読者の皆さんの大部分『何これ？』ってなったと思うんですが、作戦を行う前に行った上官のみでのブリーフィングで『こんな事実は嫌だ！』と言うコーナーがありまして…」

「コーナー！？ブリーフィングで何やってるんですか！？」

「フリップに僕はここで言う本文の『最悪のシナリオ』を書いたわ

けですよ」
「フリップ！？バラエティーですか！？」
「それで、他の人のは僕のより酷くはなかったんですよ。それでそのフリップ案から作戦の中のさらに細か部分プランＡ～Ｄが作られました」
「もう、どうでもいいです。で、大佐はどれですか？」
「俺のは、俺のフリップ案以上の事実であった場合を総じて『最悪のシナリオ』と言うわけです」
「つまりは、それ以上ヤバイ事はないだろう。というのが『最悪のシナリオ』だと」
「要はね、ただ作戦は思い通りには行かんものですよ」
「それはそうです、ロリコンじゃありませんから」
「何！？何故分かった！？」
「では、このあたりで！さよーならー！」
「…無視？」

大佐はおバカ（前書き）

すいません、更新遅くなりました

大佐はおバカ

「ははははは！大型無人機動兵器ぃ！？聞いてませんけどもォオオオ！？やりやがったな！あのハゲ准将がァアアアアアア！！（全力疾走）」

「アッハハハハハ！大佐ァ！我が軍のエースなんですよね！？アレ、どーにかしてくださいよォ！（猛ダッシュ）」

「無理無理ィ♪今の俺は、対人、対魔導士用の兵器しか装備してないものォ！！まちばりで戦艦に立ち向かうようなモンだぜェエ！！（やっぱり全力疾走）」

「はーははは！ホント使えないですね、馬鹿大佐ァ！！（鉄腕（？）！猛！！ＤＡＳＨ！！！）」

「ちょっと黙ってようぜェ！？ロリコン大尉ィ！！（ノンストップ全力疾走！）」

さぁて、読者諸君！何が起きてるかわからないだろう？やはり、定番の回想シーン…

でも、回想シーンとかやってたらその間に俺死んじゃうかも知れないから、この場で「命懸け！フリップＤＥ説明大作戦」を敢行する！ちなみに異論は認めない！

「大佐ァ！？フリップ！？それフリップですか！？何する気ですか！？どっから出したんですか！？（ちょっと疲れてきた）」

「うるせぇ！今から読者にいろいろ説明するんだよ！ちなみに、これはこんなこともあろうかと！バックパックに収納しておいた！『万能フリップ君！３５８０（たっぷり５０枚お得用）』だぁあああ！（辛くなってきた）」

「じゃあ、そのスペースに兵器入れたらよかったんじゃないんですか！？（頭痛くなってきた）」

「そぉの手があったぁ！！（お茶漬け食べたい）」

「もう、死んでぇえええええ！！（もう、いや…）」

フリップ回想スタート

回想（前書き）

続きです

回想

ちょっと時間は遡る…

あぁ、にしても…
あの映像は中佐と中尉に見せなくてよかった…アレは耐性がなかったら間違いなくゲボる。

つーか、空気が痛い&重い…ま、しかたないけどね？

「大佐、どう…するんですか？」

しびれをきらしたか、それとも怒り心頭で頭に血が上ってるか…大尉にしては珍しいが、声が震えている。

「んー…今どうするか考えてるんだ」

「考えてるって…そんな悠長に構えてていいんですか！？最悪のシナリオなんでしょう！？だったら、直ぐにでも突入して、殲滅すべきです！！」

珍しいなぁ…普段やる気なしで、何事にも無関心な大尉が感情的になるなんてな。

おっと…いい加減仕事モードに入らんとな。

「そうだなぁ、出来たらいいな、それ」

「……は？」

あぁ、やっぱり気付いてなかったか。つーことは、他も分かってない、って事か。

「よし、みんな。今から説明と次の作戦を話す。あと、途中での質問は無しだ。時間が無いからな」

あと冷静にな？

お詫び（前書き）

申し訳ありません。

諸事情により、しばらく本編の投稿を中止します。

代わりのオマケ編を投稿していきます。

お詫び

「どうも、大佐です。はい、皆さん。作者がやってくれたので、オマケ編がスタートしてしまいました」

（申し訳ありません…）
→作者

「オマケ編の説明をざっ、としていきます。基本的にセリフオンリー、リクも受け付けます……オマケかコレ！？本編より力入ってねぇか！？」

「大佐、そこはスルーで」

「黙れ、ロリッパー」

「いい加減にしてくださいよ！！任務中に後ろから撃ちますよ！？」

「あー、はいはい…えー、続きですが、駄文であるのは相変わらずなのでそこは大目に見てやってください。で……えー……コレはやっていいのか？」

「むこうはＯＫだそうです」

「いや、そうじゃなくて…この小説でやっていいのか聞いてんの」

「大丈夫でしょう」

「この小説ってのは『お前がいる』ってのも込みで大丈夫か、って

聞いてんのよ？オーケー？」

「大丈夫ですッ！」

「（い～や、絶対大丈夫じゃないな…）えー……オマケ編では原作キャラとのコラボを行います……やっぱやめない？」

「いえ、やりましょう！むしろＧＯ！」

「（ダメだコイツ…）というわけでオマケ編がスタートする訳ですが……最後に、作者から」

今までのていたらくに続き、このような事態になったことに深く反省しております。

何卒ご容赦のほど、よろしくお願い申し上げます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1677i/

魔法少女リリカルなのは～戦士達の記憶～

2010年10月21日21時54分発行